
曇天アスファルト

brave

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

曇天アスファルト

【Nコード】

N9186T

【作者名】

brave

【あらすじ】

田舎住みの若者が仲間と共に様々なことを経験し、切磋琢磨していく姿をリアルに描く。

プロローグ（前書き）

初めまして、braveと申します。

小説は初めて書くので、これが処女作となります。

ゆえにおかしな点が多々浮き彫りになってくると思われませんが、どうか大目に見てやって下さい。

プロローグ

まだ朝は遠い。

もう慣れた薄黄色の箱の煙草をふかして重い腰を椅子に沈め軋ませる。

昔の記憶と真新しい出来事が交差するこの部屋が俺が一番好きだ。灰皿から溢れんばかりの煙草の吸殻が今までの俺の過ちと後悔の数を表しているような気になって、少し心苦しくなった。

人は誰でも身も心も大人になっていく。当然のことであり、仕方のないこと。

昔は早く大人になりたいと思っていた。

無邪気に仲間達とバカやって何の屈託も無く笑い転げていられた日々、多少の悪さなら許されたガキゆえの特権、そんな生活にはもう戻れなくなるなんて考えもせず。

今更になってガキだった頃の俺を羨ましがりつつ紙くずだらけのデスクの引き出しを何気なく漁っていたら、奥の方から安っぽい合皮でできたボロボロのブレスレットを発掘した。

一瞬何だろうと考えたが、すぐに思い出せた。

それはまるであの頃の俺を象徴してるみたいだった。

「懐かしいなあ・・・。」

まさか未だにこんなものが残っているとは思わなかった。

まだ皆も持っているだろうか。

新しい煙草を一本啜え、低い天井に目を移す。薄暗い部屋に光は無い。

「さて、明日はどうすっかな。」

これといった予定も無く、また明日を迎えるだろう。

コーヒーを一口含み、椅子に座ったまま静かに目を閉じる。

まだ、朝は遠い。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9186t/>

曇天アスファルト

2011年10月9日07時49分発行